

OPINION

年末と新年に追伸があった。

元旦の早朝、メキシコからの便り、昨年5月に寄稿があったノーマン・ウルフ教授からだ。「お元気で過ごしですか?日本のパンデミックはどうですか?ニュースでは、オミクロン変異株によって、日本では再びロックダウンが起こり、規制がかか

ナビゲーター

っていると聞いています。皆さんは大丈夫ですか? (編注、正確ではない情報ですね)

こちらでは、ワクチン接種が少しずつ進み、2月の新学期には大学も対面授業に戻るかもしれません。2カ月ほどで青信号ですが、エビファニーを境に黄色に戻るかもしれません。私は3週間前に手術をして療養

コロナはまだまだ続くのか

○ ○ 32

リポート コロナ禍に立ち向かう

世界のいま~日本への提言~

(編集・翻訳 リーム中産連)

中です。1週間ほど大変でしたが、少なくとも今は起きて、日中2、3回散歩することが出来ます。

メキシコ国立自治大学で11月に評議員に選ばれました。皆さんの職場

メキシコとバンダラデシユからの追伸

の様子はどうですか。2022年、皆さんにとって成功の年、そして何より健康の年となることを祈っています。お元気で過ごしてください」

「パーティーをするのか疑問に思うかも知れませんが、多分、母は友達に頼まれたのだと思います。僕がコロナに感染しなかったのは、大人たちとは別に、自分の部屋で子供たちと遊んでいたので。子供は無事だったので。でもその後、私は母からコロナをもらいました。」

「これは楽しい知らせ。パンダラのサフィール・フセイン12歳、昨年11月に家族全員感染の報告を寄せたザキールの息子である。」「こんな

にちは、僕は昨年2月コロナに感染しましたが、どのように隔離された日々を過ごし、そして回復したのか、経験を話します。

母の友人の一人が、コロナ・ウイルスに感染していました。その人は症状がほとんどなかったため、感染に気付かなかったのです。パーティーが盛り上がりつつあったこともあり、距離を保つことができませんでした。母は友人からコロナ・ウイルスに感染してしまいました。

で、その夜、何の理由もなく母と一緒に寝たのです。そして僕は母からウイルスに感染しました。すでに紹介したように、父もウイルスに感染しました。僕は母の部屋に、父は別の部屋にいたのですが、時々、母の部屋の様子を見に来て感染しました。妹たちは、おばさんとおじさん

が面倒を見てくれました。隔離中、僕がしたのは、肉や魚などの栄養のある食品をできるだけ摂取することです。カバブ、パルー、キチュリー、ピリヤニ、カレーなどを食べたり、絵を描いたりもしました。でもコロナには副作用がありません。脱水症状が起きます。そして、だんだん食べなくなります。まるで感染を終わらせず、そして体が弱くなるように、と。

ところで、現在の僕ですが、感染前から10kg体重が増えています。感染中は外出できませんでしたが、いまは外でサッカーやバトミントン、サイクリングを楽しんでいます。体重を減らすのがたいへんです」

新年、もうコロナとは縁をきりたいものである。
(月曜日に掲載)